

麦類 除草剤一覧

1 使用上の注意事項

(1) 使用上の注意

ア 粒剤、細粒剤

- (ア) 土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、適当な土壌水分の時に処理する。
- (イ) 散布ムラが生じやすいので、朝夕の無風時に処理するなど均一散布に努める。
- (ウ) 排水不良田や降雨（特に大雨）の前後には薬害のおそれがあるため使用しない。

イ 乳剤、水和剤

- (ア) 土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、登録の範囲内で希釈水量を多めに散布する。
- (イ) 散布器具は念入りに洗浄する。

ウ 播種後土壌処理剤

- (ア) 土塊が大きい場合は出芽障害をきたしやすく除草効果が劣るため、播種前の砕土・整地は丁寧に行う。
- (イ) 覆土が薄いと出芽抑制、生育抑制等の薬害を生じやすいため、2～3 cm 程度覆土する。

(2) 登録内容は 2023 年 7 月 1 日現在

(3) 本年度に新しく採用した薬剤は、太字で示した。

2 農薬登録状況の確認

農薬の登録内容については、下記のホームページ等で最新情報を確認する。

農林水産省 農薬登録情報提供システム

<https://pesticide.maff.go.jp>

3. 播種前処理

2023年7月1日現在

除草剤名 (登載年)	成分 (%)	麦類	
		小麦	大麦
サンダーボルト007 (2009)	グリホサートイソプロピルアミン塩 30.0 ピラフルフェンエチル 0.16	○	○
タッチダウン i Q (2010)	グリホサートカリウム塩 44.7	○	○
バスタ液剤 (1991)	グルホシネート 18.5	○	○
ブリグロックスL マイゼット (1988)	ジクワットジプロミド 7.0 パラコートジクロリド 5.0	○	○
ラウンドアップマックスロード (2011)	グリホサートカリウム塩 48.0	○	○

* (播種前に雑草防除を要する場合)

4. 播種後出芽前茎葉処理

2023年7月1日現在

除草剤名 (登載年)	成分 (%)	麦類	
		小麦	大麦
タッチダウン i Q (2013)	グリホサートカリウム塩 44.7	○	○
バスタ液剤 (1991)	グルホシネート 18.5	○	○
ブリグロックスL マイゼット (1988)	ジクワットジプロミド 7.0 パラコートジクロリド 5.0	○	○
ラウンドアップマックスロード (2011)	グリホサートカリウム塩 48.0	○	○

5. 播種後土壌処理

2023年7月1日現在

除草剤名 (登載年)	成分 (%)		使用上の注意	麦類	
				小麦	大麦
ガレース乳剤 (1999)	ジフルフェニカン トリフルラリン	3.7 37.0	1. 麦葉身が白斑することがあるが、その後の生育・収量には影響しない	○	○
ガレースG (粉粒剤) (2000)	ジフルフェニカン トリフルラリン	0.15 2.0	1. 乳剤に準ずる	○	○
キックボクサー細粒剤F (2013)	プロスルホカルブ リニュロン	7.0 1.75	1. ムギレンジャー乳剤に準ずる	○	○
クリアターン乳剤 (1996)	ベンチオカーブ ペンディメタリン リニュロン	50.0 5.0 7.5		○	○
クリアターン細粒剤F (1997)	ベンチオカーブ ペンディメタリン リニュロン	8.0 0.80 1.2		○	○
ゴーゴーサン乳剤 (1985)	ペンディメタリン	30.0	1. 除草剤抵抗性スズメノテッポウが発生するほ場では使用しない	○	○
ゴーゴーサン細粒剤F (1988)	ペンディメタリン	2.0	1. 除草剤抵抗性スズメノテッポウが発生するほ場では使用しない	○	○
サターンバアロ乳剤 (1979)	プロメトリン ベンチオカーブ	5.0 50.0		○	○
サターンバアロ粒剤 (1980)	プロメトリン ベンチオカーブ	0.80 8.0		○	○
シナジオ乳剤 (2013)	トリフルラリン IPC	33.0 11.0		○	○
トレファノサイド乳剤 (1977)	トリフルラリン	44.5	1. 除草剤抵抗性スズメノテッポウが発生するほ場では使用しない	○	○
トレファノサイド粒剤2.5 (1982)	トリフルラリン	2.5	1. 乳剤に準ずる	○	○
バンバン細粒剤F (2013)	エスプロカルブ ジフルフェニカン	6.0 0.15	1. 麦葉身に白斑が発生することがあるが、その後の生育・収量には影響しない 2. 除草剤抵抗性スズメノテッポウに有効	○	○
ボクサー (乳剤) (2012)	プロスルホカルブ	78.4	1. 黄斑、縮葉が発生することがあるが、その後の生育・収量には影響しない 2. 除草剤抵抗性スズメノテッポウに有効 3. ノミノフスマに対する効果が劣るので発生ほ場では生育期処理剤との体系防除を行う	○	○
ムギレンジャー乳剤 (2012)	プロスルホカルブ リニュロン	46.0 11.5	1. 麦葉身が白化することがあるが、その後の生育・収量には影響しない 2. 除草剤抵抗性スズメノテッポウに有効 3. 少量散布 (25~50L/10a) の場合、専用ノズルを使用する	○	○
リベレーターフロアブル (2016)	ジフルフェニカン フルフェナセット	8.4 33.6	1. 麦葉身が白化することがあるが、その後の生育・収量には影響しない (ジフルフェニカン) 2. 出芽後、生育が抑制されることがあるが、出葉・生育・収量には影響しない (フルフェナセット) 3. 除草剤抵抗性スズメノテッポウに有効	○	○
リベレーターG (2023)	ジフルフェニカン フルフェナセット	0.2 0.6	1. 砕土、整地は丁寧に行い、覆土深が2~3cmとなるようにする 2. 処理後に大量の降雨が予想される場合は使用をさける 3. 除草剤抵抗性スズメノテッポウに有効	○	○

6. 生育初期処理

2023年7月1日現在

除草剤名 (登録年)	成分 (%)	適用 雑 草	使用上の注意	麦類	
				小麦	大麦
ハーモニー細粒剤F (1997)	チフェンスルフロンメ チル 0.15	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	1. 散布の時期は麦の1~3葉期で、スズメノテッポウの2葉期頃まで。播種直後処理では効果がやや劣る。 2. 除草剤抵抗性スズメノテッポウの発生ほ場では使用を控える。	○	○

7. 生育中期処理

除草剤名 (登録年)	成分 (%)	適用 雑 草	使用上の注意	麦類	
				小麦	大麦
アクチノール乳剤 (1970)	アイオキシニル 30.0	一年生広葉雑草	1. 除草効果を上げるため、茎葉全体に十分薬液がかかるように散布する。 2. 2月中旬以降の散布では、早く出芽したヤエムグラが大きくなっているため登録の範囲内で散布量、希 積水量を増す。 3. イネ科雑草には効果がないので、播種後、他の除草剤を散布しておく必要がある。 4. 遅効性であるから、効果が現れるのは散布後15日程度である。 5. 大麦では葉害を生じることがあるが、その後 回復する。 6. 降雨前及び土入れ直後の使用はさける。 河川や養魚池等に飛散、流出しないように十分注意する。	○	○
エコパートフロアブル (2000)	ピラフルフェンエチル 2.0	一年生広葉雑草	1. 一年生広葉雑草に対し、2~4葉期処理で効果が高いが、雑草の生育が進むと効果が低下するので、使用 時期を失しない。 2. 効果の発現が早く、低温条件でも速効的である。 3. 麦の葉身部に軽微な白斑、白点などを生じることがあるが、一過性でその後の生育・収量に影響しない。 4. 茎立期以降は、白斑、白点が顕著に発生するので使用しない。 5. 葉害が出やすいので使用量は登録の範囲内で少ない量とする。	○	○
ハーモニーDF (1993)	チフェンスルフロンメ チル 75.0	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ カズノコグサ ギンギン類	1. 使用量が従来の除草剤に比較して極めて少ないので取り扱いに注意する。 2. 野菜等の周辺作物に葉害を与えるため散布時のドリフトや散布後の流出に十分注意する。 3. 散布に用いた器具類は消石灰 500倍液を10分間循環させた後、20分間放置し排水後、清水で洗浄する。 4. 効果の完成には1ヶ月以上必要で、一部の雑草は生育を停止したまま長期間残ることがある。 5. 大麦の節間伸長期開始頃の処理では減収することがあるので処理時期が遅くならないように注意する。 6. 葉身の退色等の葉害が発生することがあるが、生育への影響は殆どない。 7. 降雨前及び土入れ直後の使用はさける。 8. 除草剤抵抗性スズメノテッポウの発生ほ場では使用を控える。	○	○
		一年生広葉雑草	9. 使用時期は小麦の節間伸長期開始期~穂ばらみ期であるが、雑草の生育が進むと効果が低下するので、 使用時期を失しない。また、小麦茎葉の繁茂により薬液が雑草に付着しにくくなることも留意する。	○	
MCPソーダ塩 (2018)	MCPAナトリウム塩 19.5	一年生広葉雑草 多年生広葉雑草	1. ホルモン系の除草剤で、広葉雑草に対し2~4葉期処理で効果が高い。 2. 野菜等の周辺作物に葉害を与えるため散布時のドリフトや散布後の流出に十分注意する。 3. 散布に用いた器具類は早めに水で洗浄し、他の作物に葉害を及ぼさないようにする。	○	○

8. 薬剤の特性

成分名	種類	吸収部位	作用特性	殺草作用	効果の発現状況	適用草種	持続効果	土壤中の移動性
IPC	カーバメート系	幼芽、根	移行性	有糸分裂/微小管形成阻害	発芽抑制	イネ科>広葉	中	小
MCPA	フェノキシ酸系	茎葉	接触性	インドール酢酸様活性 (合成オーキシン)	発芽抑制、生育阻害	広葉雑草	—	大
アイオキシニル	ニトリル系	茎葉	接触性	光合成(光化学系Ⅱ)阻害	黄白化後徐々に枯死	一年生広葉	中	極小~小
エスプロカルブ	チオカーバメート系	幼芽、根、 茎葉	移行性	脂質合成阻害(非ACCase阻害)	発芽抑制、生育阻害	イネ科>広葉	長	小
グリホサート	アミノ酸系	茎葉	移行性	EPSP合成酵素阻害	わい化、奇形化後枯死	雑草全般	—	無
グルホシネート	アミノ酸系	茎葉	移行性	グルタミン合成酵素阻害	わい化、奇形化後枯死	雑草全般	—	無
ジクワット	ビピリジリウム系	茎葉	接触性	光化学系Ⅰ電子変換	黄白化後速やかに枯死	広葉>イネ科	—	無
ジフルフェニカン	酸アミド系	幼芽	移行性	白化:フィトエン脱飽和酵素系 (PDS)でのカロチノイド生合成 阻害	白化後速やかに枯死	広葉>イネ科	極長	小
チフェンスルフロ ンメチル	スルホニルウレア系	根、茎葉	移行性	アセト乳酸合成酵素(ALS)阻害 (アセトヒドロキシ酸合成酵素 (AHAS)阻害)	黄化、わい化後徐々に枯死	スズメノテッポウ、 一年生広葉	中~長	小
トリフルラリン	ジニトロアニリン系	幼芽、幼根	移行性	微小管重合阻害	発芽抑制	イネ科、ナデシコ科	長	小
パラコート	ビピリジリウム系	茎葉	接触性	光化学系Ⅰ電子変換	黄白化後速やかに枯死	雑草全般	—	無
ピラフルフェンエ チル	ダイアゾール系	茎葉	接触性	プロトポルフィリノーゲン酸化 酵素(PPO)阻害	黄化、褐変後、速やかに枯死	広葉雑草	—	小
フルフェナセット	酸アミド系	幼芽、根	移行性	VLCFAの阻害(細胞分裂阻害)	発芽抑制、生育阻害	イネ科>広葉	長	極小
プロスルホカルブ	チオカーバメート系	幼芽、根、 茎葉	移行性	脂質合成阻害(非ACCase阻害)	発芽抑制、生育阻害	イネ科>広葉 ※ミノスマ効果劣る	長	小
プロメトリン	トリアジン系	根、茎葉	移行性	光合成(光化学系Ⅱ)阻害	黄化後徐々に枯死	雑草全般	長	小
ベンチオカーブ	チオカーバメート系	根、幼芽、 茎葉	移行性	脂質合成阻害(非ACCase阻害)	発芽抑制	イネ科、カヤツリグサ科 >広葉	中	小
ペンディメタリン	ジニトロアニリン系	幼芽、根	移行性	微小管重合阻害	発芽抑制	キク科、ツユクサを除く 一年生雑草	長	小
リニュロン	尿素系	根、茎葉	移行性	光合成(光化学系Ⅱ)阻害	雑草発生後に徐々に枯死	広葉>イネ科	中	小